

ネットサーフィン

Netsurfing 中川慎之介 somedarappa

ネットサーフィンとは、興味の赴くままに次から次へとウェブページを渡っていき何かに出会う旅である。何か特定の答えがあるわけではなく興味本意で進んでいく感覚はとても能動的で豊かであると思う。しかし、最近ではネットサーフィンという言葉もあまり使われなくなった。SNS で繋がったり、検索機能の充実や情報の整理により何かを探す時もブラウジングという言葉で事足りてしまう。ネットサーフィンとは当ての無い旅に出ることでもある。旅の途中で会う何かにときめき進路を決めていくような軽い旅である。

自分自身も最近ではあまりネットサーフィンをしなくなった、それはインターネットに旅のような魅力を感じなくなってしまったからではないかと考えた。自分の興味がインターネットから離れていたのだ。その理由を探すためにも自分が当時感じていたインターネットの魅力を作品に置き換えてみることにした。

自分本位で進んでいくその世界では自分しかいなくなっていく。次々に要素が増え、情報が増え、見るものが増えていくが、生きている存在はユーザーの自分以外見つけることができない。しかしその情報をインターネットに載せているのは生きている人間だ。ウェブ上にある写真に写っている人間も生きている（もしくは生きていた）人間だ。しかしその人間たちはどんな見た目かわからないしどんな人かわからない。インターネットの情報を簡単に信じてはいけないという教育を小学校から受けたおかげでインターネット上の人間には人間味をあまり感じる事ができないそこには“生き物かもしれない存在”がある。確かにオンラインで繋がるユーザー同士もいるだろう、しかしそのユーザーと会ってみるまで本物の人間か bot かわからない。その“生き物かもしれない存在”はインターネットならではの存在ではないか。作品ではキャラクターを多用し“生き物かもしれない存在”をたくさん作ることで彼らの世界として成り立たせようとした。

ぜひマウスを使って彼らと触れ合ってみてください

ネットサーフィン

インターネットを利用して世界中のサーバーに次々と移動して飛び回ること。ちょうど波乗りのようにネットを渡り歩くのでこの名がついた。ウェブブラウザと呼ぶ閲覧ソフトを用いれば、マウスで選択するだけでリンクするサーバーのページを表示できるため、情報のありかを意識することなしに世界中のホームページにアクセスできる。

ブラウジング

インターネットに接続して情報を探し出すこと。Web サーバーなどにアクセスしてその中のハイパーリンクを通して次々に新たなデータを探していくようなときに使う。

bot

ロボットの略。コンピューターで、人の代わりに自動的に実行するプログラムの総称。コンピューターウイルスの一種で、悪意ある攻撃者による指令を、外部から自由に実行できるようにするプログラムや、検索エンジンのデータベースを作成する専用ソフトウェアであるサーチボットなどがある。ほかに、オンラインゲームをプレイヤーの代わりに自動的に操作するプログラムも意味する。